

いい人。ちかい人。



川西町出身・一刀彫師

## 石橋 康宏 さん

奈良の伝統工芸を東北から発信！

川西町で生まれ育ち大学卒業後に奈良県内の自動車販売店で営業をしていましたが、27歳になる年に京都の大学に入り直して仏像彫刻を学びました。卒業後、3年間「奈良一刀彫」の修行をして技術を習得され、結婚を機に宮城県蔵王町で工房を構えています。

1982年生まれ。川西町結崎出身。

奈良県では、子どもが誕生したときに「一刀彫」の雛人形や五月人形を贈る習慣があります。一刀彫は奈良の伝統工芸で、大胆で力強いノミ跡を残した造形と、日本画の技法の鮮やかな色彩が特徴です。

**会社員から一刀彫師に転身・奈良から東北へ移住**

石橋さん 大学卒業後、県内で自動車販売の会社に勤めていました。ある時、伝統工芸の後継者が少なくなってきたことを知り、それなら自分が継承して伝えていかなければ！と思い一念発起しました。

——一刀彫を始めてみていかがでしたか？

石橋さん 一刀彫は伝統的な工芸ですが、職人の個性や作風が出やすく、良い意味で自由なところが自分に合っていると思います。

——現在は宮城県で工房を構えています。奈良の伝統工芸のイメージと結びつきにくいのですが。

石橋さん 結婚を機に、妻の実家がある宮城県蔵王町に移住しました。奈良の伝統工芸を遺すために修行してきたのに、奈良から出て

いいものかと悩みました。しかし、東北で認知度が低いからこそ、奈良一刀彫の魅力や伝統を発信し、知ってもらうことはやりがいのあるチャレンジだと思いました。

——東北の人の反応はいかがですか？

石橋さん 東北には一刀彫のような工芸はありません。ゆるキャラや地元のお神さまを一刀彫で製作するなどして関心をもってもらえるようにしています。また製作の実演や展示会を見に来られた方の反応が良く、受け入れていただいているんだと感じました。

**現在のライフスタイルに伝統工芸を提案**

——最近、節句の飾りを置かない家庭も増えていきます。一刀彫は小さい物では手の平に乗るサイズからちよつとした場所に飾れる大きさで広いスペースを必要としません。現在のライフスタイルにこそ合っているのではないかと思えます。特に石橋さんの作品はリビングに馴染みやすいと感じたのですが。

石橋さん 自分はアニメや

漫画を見て育った世代なので、可愛らしく親近感の湧く作風を心掛けています。そういったこともあり、自分の作品は、現代の居住空間にも馴染みやすいのだと思います。

**移住してみてわかった川西町の魅力とは？**

——蔵王町と川西町。それぞれに良さがあるかと思いますが、特に「違う」と感じたことはありませんか？

石橋さん やはり『ちかさ』です。蔵王町では数十キロメートル離れていても『ちかい』と表現されるのに、川西町は何でも徒歩圏内にあります。山間と平野の違いがあるかと思いますが、出てみて初めて川西町の住みやすさに気づきました。

**ふるさと納税の返礼品に作品を提供**

——節句や干支の飾り、ネッピの一刀彫をふるさと納税の返礼品に提供いただいています。

石橋さん お陰さまで、何回か返礼品として選んでいただき、作品をお届けしました。このような形で『ふるさと』に貢献できて嬉しく思っています。